



美濃川釣り倶楽部

3月27日 OPEN!

お知らせ

午前2時から

5時迄

実施中

4,800円

5,500円

ナイトタイムサービス

美濃川釣り倶楽部

3月27日 OPEN!

お知らせ

午前2時から

5時迄



小山駅

OYAMA STATION



小山駅

開通 小山駅

小山駅

祇園城跡・城山公園
The ruins of Gionjō Castle (Shirayama Park)

小山宿脇本陣跡
The ruins of Oyama shuku waki honjin

興法寺
Kōbōji Temple

足利銀行

ひまわり
矯正歯科

下野
Shimotsuke
JR小山駅西口
JR Oya
263

栃木市
Tochigishi
春日部
Utsunomiya
河
Utsunomiya
那須塩原
Nasushiobara
宇都宮
Utsunomiya
31
4
4

◀ 小山評定通り ▶

足利小山橋用金



小山評定跡



史跡
小山評定跡

小山評定跡

小山評定跡由来

慶長五年（一六〇〇）七月二十四日

徳川家康は、会津の上杉景勝を討つべく小山に到着しました。

このとき、石田三成が家康打倒の兵をあげたことを知り、翌二十五日この地において軍議が開かれました。これが「小山評定」といわれるものです。

軍議は、三間四方の仮御殿を急造し、家康と秀忠を中心に、本多忠勝、本多正信、井伊直政や福島正則、山内一豊、黒田長政、浅野幸長、細川忠興、加藤嘉明、蜂須賀至鎮らの諸将が参集しました。福島正則が協力を誓い、これをきっかけに軍議は家康の期待どおりに決まりました。同年九月十五日、関ヶ原の戦いがおこなわれ、東軍（徳川方）の勝利にむすびついた歴史上重要な所です。



妙建寺



須賀神社

須賀神社



須賀神社



新義真言宗 持宝寺

弓削道鏡根本開基寺

持宝寺

FS
星野胃腸科外科
25-3533

足利小山信用金庫

FS
星野胃腸科外科
駐車場

栗宮





小山町
粟宮
Awanomiya

小山町
粟宮
Awanomiya

速度落とせ!
歩行者自転車に注意
小山ロータリークラブ

小山警察署

栗宮信号



安房神社

安房神社

4

東京から
from
Tokyo

75
Km

国分寺
まで
to Kokubunji

11
Km

間々田
東京まで75km



ドライブスルー
すき家
牛丼・カレー
15km

小林はなえ

新設路

株式会社 中央計
TEL. 0262-42-2821

地酒

若盛

栗宮(南)信号

村

淺間神社

淺間神社



← マルハン



千田塚

6990円〜

千田塚信号



間々田

東京 72km
Tokyo
4
春日部 36km
Kasukabe
古河 12km
Koga



おき
SUKIY
ライブ
24時間
とおき
美しが丘店
クリニックス
TEL. 41-0025
信号左折
間々田東小

とおき
クリニックス
TEL. 41-0025
信号左折
間々田東小

信号左折

間々田
東京まで72km

P
IN

50
No Left Turn
Blue Circle





間々田四丁目
Mamada 4-chome

間々田四丁目
Mamada 4-chome

綿久

御滞在歓迎
館花屋
☎0266-450011
P

SUZUKI
アルト
ワゴン

全龍

SUZUKI

間々田四丁目: 信号

間々田八幡宮

国の選択無形民族文化財『蛇まつり(間々田のジャガマイタ)』で広く知られる間々田八幡宮。その創建は奈良時代の天平年間と伝えられ、古くは藤原秀郷・源頼朝らの武将が戦勝を祈願したと伝えられ、江戸時代には日光例幣使が例年参拝したという記録も残されています。

神社の主祭神は誉田別命(応神天皇)で末社として次の神社が合祀されています。

愛宕神社 淡島神社 稻荷神社
八龍神社 雷電神社 厳島神社

拝殿・権現造瓦葺、本殿・権現造柿葺となる現在の社殿は、江戸時代後期の享和年間に旧社殿が焼失した後、嘉永四年(一八五一年)に再建されたものです。この工事には、折しも東照宮大修理で各地より集められた宮大工があたったと伝えられ、本殿内外の彫刻にその優秀な技術をしのぶことができます。

境内は約五万二千平方メートルと広大で、うち約二万平方メートルが、公園として市に提供されています。野鳥が泳ぐ二つの大きな池のほか、大小様々な古墳が点在する鎮守の森には、市の文化財に指定されたコナラやスギなどの古木が茂り、市民の憩いの場として親しまれています。

神社の例祭は九月十五日。約四百年前より続く奇祭『蛇まつり』は、毎年五月五日の開催です。

間々田商工会
小山歴史研究会



間々田八幡宮



航空イト急便

クリーニング

じやまつり

京山市
間々田
Memada

間々田



160

河部
式場

間々田:信号

業総合請負
原鉄鋼
☎45-0800

乙女屋
手ぬぎや

PARM SALON

PARM SALON

乙女三丁目



龍昌寺

天惠山

龍昌寺

酒の

さやま

酒の十八里
日光の十八里

日光街道
周の田舎

逢の
酒の
穂



小豆畑

乙女

小山主門台

あ
逢いの榎
えのき
（間の榎）

旧日光街道間々田宿

逢いの榎

小山市教育委員会

110



アイヨ-株 極本 工場

逢いの榎

日光街道中間点

逢の榎

あい

えのき



昭和34年(1959)頃



「日光街道中間点絵図」東京国立博物館蔵

元和三年(一六一七)、徳川家康が日光に祀られると、日光街道は社参の道として整備されていき、二十一年の宿場が設けられました。

宇都宮までは奥州街道と重なって来たため、諸大名の参勤交代や物資の輸送、一般の旅人などにも利用された道でもありました。

間々田宿は、翌年には宿駅に指定され、江戸および日光から、距離もほぼ十八里(約七十二キロ)の中間点に位置していました。

天保十四年(一八四三)、間々田宿には本陣一軒、脇本陣一軒、旅籠が五十軒ほどあり、旅人が多く宿泊し、賑わっていました。松尾芭蕉などの文化人も宿泊しています。

また、中田宿から小金井宿付近までの街道沿いには、松並木が続き、一里塚には杉・榎などが植えられ、旅人の手助けとなっていました。

間々田宿の入口にあった榎は、毎年、街道を通った例幣使が江戸と日光の中間に、この榎を植えて、旅道のりを知ったのだという伝承が残されています。榎は「間の榎」とよばれ、旅人の目印となっていました。

この榎は、いつの頃からか「逢の榎」とよばれるようになり、縁結びの木として人々の信仰を集めるようになりました。祖師堂も建てられ、お参りする男女が多かったと伝えられています。





逢いの榎
あいのきのま

旧日光街道間々田宿
逢いの榎 (間の榎)

日光街道中継点
逢いの榎

昭和二十二年(一九四七)年、日光街道が
国史跡に指定された。日光街道は、日光
の歴史を伝える重要な遺産であり、二
千三百餘年の歴史を誇る。日光街道
は、日光から日光東照宮まで、約
二キロメートルの距離にわたって、
日光街道の歴史を伝える。日光街道
は、日光街道の歴史を伝える。日光
街道は、日光街道の歴史を伝える。

小山市教育委員会

逢いの榎



旧日光街道間
逢いの榎あいのき

逢いの榎
この榎は、日光街道の古くからある榎で、昔は旅人がここで休息をとっていた。樹齢は約100年と推定されている。現在は、日光街道の歴史を伝えるシンボルとして大切に育てられている。

逢いの榎



日光街道
逢いの榎



秋葉病院
32-3334

間々田駅
Mamada Sta.

200m
Fujoka

間々田駅入口
Mamada Sta. Entr.

間々田駅入口



野木町:友沼

小山市乙女



野木町:友沼



村社八幡宮

佛光寺

佛光寺

↑ 東京 70 km
Tokyo
4 春日部 34 km
Kasukabe
↑ 古河 10 km
Koga

うどん

友沼

東京まで
to Tokyo

70
Km

古河
まで
to Koga

8
Km

古河まで8km



友沼



乙女の一里塚？



野木町
Nogi Town

株式会社
エムサフ

船富士電子工業

野木町





友沼八幡神社



地蔵堂

真言宗
法音寺

法音寺

314

役場入口

千代田

1699-960

役場入口:信号





明治十一年...

十九夜塔

下野國都賀郡文治寺
女人三十七人

廿三夜塔

下野國都賀郡文治寺

供養
塔

供養塔

**いなば内科
クリニック**

日本糖尿病学会認定 日本内分泌学会認定 日本内科学会認定

**糖尿病 内分 総合内科
専門医 専門医 専門医**
(甲状腺)

〒0280 しまむら近く 信号左折

77-0770

営業品目
コイルパネ
板パネ
皿パネ
ステンスパネ
ねじりパネ
ピアノ線
ゼンマイ板
燐青銅パネ
大衆パネ工業株

春日部 古河
Kasukabe Koga

↑ 4 ↑ 栃木市
Tochigi-shi

← 野木駅
Nozaki

藤岡
Fujoka

← 74 →

300m

野木駅前





ピアノ生協
＜器種交付＞
音楽スタジオ
鈴木 67-8855





野木

町指定 野木宿道標

指定年月日 平成二十二年三月二十三日

所在地 野木町七字野木二の四七二二

本道標は、山形県野木町下生野、野木・野木一帯を結ぶ主要な街道として、約九百年前（室町時代）に設置された。この道標は、野木宿の中心地を指し示している。野木宿は、日光街道と奥州街道の重要な宿場であり、多くの旅人が往来した。この道標は、旅人の安全と利便を確保するために設置された。現在は、野木宿の歴史と文化を伝える重要な文化財として、町指定されている。

野木町教育委員会



野木宿旅道標

町指定
文化財

野木宿道標

指定年月日 平成二十二年三月二十五日

所在地 野木町大字野木二〇六七―三

本道標は、日光街道野木宿から下生井・白鳥・部屋・榎本を經由し、栃木へ向かう日光山近裏道と呼ばれた脇往還入口に建てられている。この道は、栃木で例幣使街道へ通じており、野木以南と日光方面とを短絡する道であった。また、日光街道が宇都宮まで奥州街道と重複しており、荷物の輸送や往来する人々で混雑したため、迂回路を示す道案内として、こうした道標が建てられたものと思われる。

なお、道標は交通案内の他に、旅人の安全や悪疫の村への侵入を防ぐといった道祖神的な性格や、道案内をすることで功德を得ようとする信仰とも考えられている。本道標にも「是より太平山道」と刻まれており、太平山神社への参詣道の道案内としての性格が強く、江戸時代の人々の太平山神社に対する信仰の厚さを知ることがができる。

野木町教育委員会



4

東京から
from
Tokyo

65
Km

小山
まで
to Oyama

12
Km

東京まで65km





満願寺

善徳山

満願寺

日光道中野木宿

江戸時代の野木宿は、古河宿より25町20間(約2.8km)、間々田宿へ1里27町(約6.9km)にあった宿場町である。

野木村の成立は、野木神社の周りに住居したのがはじまりで、その後文禄年中(1592~95)に街道筋へ出て、馬継ぎが開始され、新野木村が成立した。まもなく野木村も街道筋へ移動して町並みとした(「野木宮要談記」)ようである。慶長7年(1602)には本野木・新野木村を併せ、野木宿として成立した(「日光道中略記」)。こうして日光道中も東海道・中山道と前後して、慶長期(1596~1614)ころから、宿駅の設定や街道の整備が進められたとされる。

宿の規模は、天保14年(1843)では、下記の通りである。

宿の長さ	22町27間	家数	126軒	一里塚	1か所
宿の町並み	10町55間	御定人馬 <small>おさだめ</small>	25人25疋	高札場	1か所
宿高	286石余	うち囲人馬 <small>めぐい</small>	5人5疋	旅籠	大 0軒
地子免許 <small>じし</small>	3,600坪	本陣	1軒		中 2軒
人口	527人	脇本陣	1軒		小 23軒
男	271人	問屋場	4か所		
女	256人				

(「日光道中宿村大概帳」)

野木宿は小さな宿場町だったので、街道が整備され、通行量が増大すると、その負担に耐えられなくなっていった。そこで、宿人馬をたすける助郷すけごうの村々、23か村が野木宿に割りあてられた。勤め高は合計7,384石余りであった。その多くは古河藩内の村々で、現在の野木町域(川田を除く)、小山市平和などの台地上の村々と思川西部の水田地帯の村々があてられた。



日光道中分間延絵図
(東京国立博物館蔵)

野木町教育委員会



野木町歩道橋



マルハン

マルハン

野木:信号

野木町煉瓦窯 →
Nogi Town Rengagama 1100m

野木
野木
Nogi



野木



日光道中 野木宿周辺の松並木

日光道中今市宿を合流点に、日光道中、例幣使道、会津南山通り(西街道)の両側には杉並木が植えられている。この杉並木は、武蔵国川越城主の松平正綱が、寛永2～3年(1625～6)から約20年の歳月をかけて植えつけ、杉並木を寄進したものである。

日光道中野木周辺では、杉並木ではなく、松並木が続いていた(「増補行程記」盛岡市中央公民館蔵)。この松並木は、元和8年(1622)古河藩主永井右近大夫直勝が、中田より小山までの街道に、松を植えたといわれている(「下総国古河城主代々記」田波忠昭家文書)。またその子尚政が寛永期に植えたともいわれる(「小山市立博物館紀要3号」)。元和から寛永期(1615～43)までには松並木ができたということになる。

弘化2年(1845)、山形藩主秋元志朝は上野国館林へ国替えとなり、家臣山田喜太夫は妻音羽(とわ50歳)とともに移動することになった。音羽は、間々田より友沼に向かう付近で、松並木をとおる一行の絵と歌を残している(「道中記」)。

「暑さがしのぎにくいほどで、松並に風音涼しく吹いて聞こえてくる、『松風を琴のしらべに聞なして 心なくさむ旅の道野邊』。進んで野木では、「此辺は皆松並木で 景色がない、…それに松なみの間 皆小石を敷いてあるので、足が痛んだが、…歩を進め、ハッ半頃であろうか 古河の宿へ着いた」とあり、ずっと松並木が続いていたことがわかる。

なお、野木宿内では松と杉が植えられていた(「日光道中分間延絵図」東京国立博物館蔵) ようである。



日光道中分間延絵図



木
神
社

野木神社

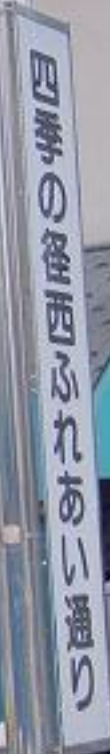


茨城県
Ibaraki Pref.

古河市
Koga City

261

古河市に入る



古河宿